

第3回 モビリティサポート有識者委員会の概要

1. 開催日時等

日時： 平成23年3月10日（木） 14：00～18：15
場所： 中央合同庁舎2号館低層棟 共用会議室3A、3B
出席者： 委員長 岡部 篤行 青山学院大学総合文化政策学部 教授
委員 河端 瑞貴 東京大学空間情報科学研究センター 准教授
委員 越塚 登 東京大学大学院情報学環 教授
委員 竹中 ナミ 社会福祉法人プロップ・ステーション 理事長
委員 寺部 慎太郎 東京理科大学理工学部 准教授
委員 古屋 秀樹 東洋大学国際地域学部 教授
事務局： 国土交通省 政策統括官付参事官室

2. 委員からの主な指摘事項

(1) モビリティサポートモデル事業について

i) 個別の取組について

- それぞれの事業で、当初想定していた成果が概ね得られている。
- 各地のシステムは、根本の技術が類似した印象を受けるが、これは良い意味で、これまで実施してきた自律移動支援プロジェクトをはじめとした歩行者移動支援に取り組んできたことで、ベースとなるモデルが出来た成果とも言える。
- 移動支援サービスの提供にあたっては、技術の進展のみならず、地域の関心と協力を構築することが必要不可欠。
- 各協議会に対する主な意見は以下の通り。

協議会の名称	有識者委員会からの主な意見
「東京ユビキタス計画・銀座」実施協議会	<ul style="list-style-type: none">・地元との協力体制を構築し、地域から理解をもらいながら実施されている点が良い。・ビジネスモデルを商業的に展開していく中で、視覚障がい者をどう位置付けられるかが今後のポイントではないか。
台東区谷中地区モビリティサポートモデル事業推進協議会	<ul style="list-style-type: none">・安価に構築できるシステムという考え方は良い。・（電子透かしQRコードの）小さなシールをいくつも貼るのではなく、大きな看板に一枚のシールを貼った方が使い勝手が良くなるのではないか。

協議会の名称	有識者委員会からの主な意見
<p>京都子連れ 観光推進協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな子を持つ親も外出したいと思っているので、是非力を入れて欲しい。 ・多くの人がコンテンツを作り込める仕組みにしている点が良い。 ・移動支援サービスを常に音声で提供するのではなく、迷ったら案内する等の工夫があれば、より良くなるのではないか。
<p>丹波篠山ユビキタス 推進協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元でフリーWi-Fi をボランティアで設置してもらうなど、地域との協力体制が構築されている。 ・町中がこの取組に協力しており、高く評価出来る。
<p>津和野町ユビキタス 観光ガイド運営協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元を巻き込んで、実施すべき内容をきちんと行っている。 ・一方、天候の影響もあり、アンケートの回収数が少ないのが残念。今後の継続運用に期待している。
<p>天神・大名地域 WiFi 化 推進協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地下街の Wi-Fi による位置特定の精度向上が課題であり、改善の方向性が得られた。 ・特に近年はポータブル WiFi も普及しており、高精度の位置特定が必ずしも必要でないサービスへの適用可能性もある。(サービスと技術のマッチング)

ii) 水平展開に向けた取組について

- モデル事業については、それらの成果を水平展開に繋げていくことが重要。網羅的に一覧で成果を見れるよう、現在の事務局案の様な形を取り纏めて頂きたい。
- 水平展開に向けて各事例の完成度を高めていくことが必要。特に成果の良点、効果、失敗点等を整理していくことが重要。(例えばコンテンツが陳腐化しない仕組みを地元で作り上げた取組や継続的な運用体制の構築等)

(2) 移動支援サービス技術研究支援事業について

○ 各研究に対する主な意見は以下の通り。

研究内容	有識者委員会からの主な意見
エネルギーハーベスティング方式による屋内位置特定インフラの研究開発	<ul style="list-style-type: none">・位置特定精度を上げたい箇所に安価に設置することの出来るインフラ開発が目的であるが、だいぶ実用に近い成果になっていると考えられる。
靴型計測装置による位置特定技術の改良研究	<ul style="list-style-type: none">・基礎研究段階だが、位置特定インフラが存在しない場所での高精度な位置特定に役立つ重要な技術である。・超音波センサーを含め、装置の小型化など実用化に向け、更なる研究が必要である。
歩行空間ネットワークデータ音声化研究	<ul style="list-style-type: none">・視覚障がい者のメンタルマップは、先天性か後天性かによって異なるので、その部分に踏み込んだ案内が出来ればより良いと考えられる。・歩行空間ネットワークデータは、非常に細かい項目に分かれている。今回の研究成果が項目の精査につながれば良い。今後の実用化に期待。
聴覚障がい者の公共交通を促進する情報提供システムの研究	<ul style="list-style-type: none">・バス車内では音声案内が主だが、聴覚障がい者はその情報を得られない。今回の研究は、そこをカバーする点で良い。・すぐにでも実用化できるものであり、今回の研究成果は積極的に公開すると良い。

以 上